



# め た せ こ い あ

至 創 努 校  
誠 造 力 訓

島根県立吉賀高等学校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937  
電話 (0856)78-0029 FAX (0856)78-0742  
HP アドレス <http://www.yoshika.ed.jp/>

## 『サクラマス・ドリーム・プログラム』の課題

吉賀高等学校 校長 齋藤雅典

3月4日にキャリア教育成果発表会を行いました。平成24年度から始まった吉賀高校のキャリア教育『サクラマス・ドリーム・プログラム』も4年の積み重ねができました。

私が吉賀高校に赴任した平成25年度は『アントレプレナーシップ教育』1年目の年でした。起業家の講演があったり、インターンシップがあったり、地域からたくさんの方が指導に来られたり、という様子を見て「吉賀高校はずいぶん先進的なことをやっているな」と感じたものです。初めてのことで生徒にはとまどいも見えましたが、企業で社員研修の経験を持つ山崎コーディネーター（当時）が、強いリーダーシップを発揮して授業を進めました。起業家・事業家の方の指導を受けながら自分たちのプランを考え、それを発表するというスタイルはこの年にできました。

その後、『聞き書き』も『アントレプレナーシップ教育』も、同じ事を繰り返すのではなく、少しずつ変更を加えながら実施してきています。今年の『聞き書き』は、対象を「高津川」に絞りました。『アントレプレナーシップ教育』でも変更があります。総合探究コースは、ビジネスプランではなく、進路希望に応じた問題解決学習に取り組みました。例えば医療を志望する生徒は、吉賀町の医療の現状を学び、課題を発見し、解決策を考えるという学習です。また、地域創造コースは、これまで以上に実現可能性の高いプランをめざしました。

ところで、この『サクラマス・ドリーム・プログラム』は3年生まで続くものです。3年での学習内容は、1, 2年の学習を活かした進路希望実現のための学習です。キャリア教育は生き方に結びつく教育です。『聞き書き』『アントレプレナーシップ教育』が日々の教科学習と結びつき、進路希望の実現につながってこそ、プログラムは完結し、価値あるものとなります。このことをこれまで以上に強く意識し、生徒自身が価値を実感できるものにすること、これが今後の課題だと考えます。

振り返るとこの3年の間に、バス回数券や部活動帰宅バスの運行など、地域・町からの高校支援はずいぶんと拡充しました。一方で、平成25年度の全校生徒数は90名だったのに対し、平成27年度は89名です。もっと多くの中学生が吉賀高校に「行きたい」と思うようになるためには、『サクラマス・ドリーム・プログラム』が中学生にとって魅力あるものになることが欠かせません。まもなく平成31年度以降の「県立学校再編計画」の検討が始まるだろうと言われています。このことを思うと、引き続き、強い危機感を持って課題に取り組む必要を感じます。



さて、私は3月で定年を迎えます。課題を残したまま学校を去ることを心苦しく思います。この3年の間には、町内でも、町外でも、多くの方と出会い、いろいろなことを教えていただきました。教員生活の最後を吉賀高校の校長として過ごすことができたことを幸せだったと思います。お世話になった皆様に心からお礼を申し上げます。

## 卒 業 式

3月1日（火）に卒業式が挙行され、卒業生との別れを惜しむなごり雪が降りしきる中、29名が吉賀高校を巣立っていきました。厳粛な雰囲気の中で壇上に上がり卒業証書を受け取る姿は、自信と希望に満ちあふれ、とても輝いて見えました。

在校生代表送辞では、2年生の石井恒星君が「十人十色それぞれの人生を描き出し、他の誰でもない自分の道を進んで行ってください。」という言葉を送りました。

卒業生代表答辞では、卒業生の吉村諒太君が支えてくれた友人や家族への感謝の意を述べるとともに、「皆さんが卒業する時に後悔することのないよう、有意義な高校生活を送って下さい。」と後輩を激励しました。

式の終了後には、生徒会執行部が卒業生のために制作した映像の上映と、卒業生が三年間の感謝の思いを込めて制作した映像の上映が続けて行われました。どちらも感謝の思いが溢れる映像で、会場全体が胸を熱くしました。



3年1組



3年2組



吉村諒太くん 答辞



## 伊藤博子先生の水彩画を 寄贈していただきました

エコビレッジ柿木村に飾ってあった伊藤博子先生の水彩画を、エコビレッジ柿木村と伊藤先生のご厚意で吉賀高校に寄贈していただきました。柿木村出身の伊藤博子先生は、様々な展覧会で受賞された水彩画家であり、現在は日本水彩画会員及び埼玉県美術家協会会員でいらっしやいます。このような素晴らしい水彩画を校内で身近に鑑賞することができ、大変嬉しく思っております。ありがとうございました。



## キャリア教育成果発表会

3月4日（金）に林業センターでキャリア教育成果発表会が行われ、全5チームが代表として活動報告や学習の成果発表を行いました。多くの町民の方にご参加いただき大変ありがとうございました。

### 1. 吉高地域クラブ（松田あずみさん、澄川結菜さん、新藤成未さん、中田帆南さん、岡本悠さん、桑原悠菜さん、山本真衣さん）

《内容》地域クラブの1年間の活動内容の報告

- 「よしか・夢・花・マラソン大会」「田んぼの生き物調査」「小学生夏休みわくわくクラブ」「吉賀町ふるさと夏祭りヤマメのつかみどり」などのボランティア活動について
- 吉賀米を使ったライスバーガーの考案と「七力祭」「きん祭みん祭農業文化祭」での販売について
- 書道ガールズの取り組みについて
- 地域クラブの活動を通して感じたこと

### 2. 1年生チーム「コシヒカリ」（茅原なつきさん、兒玉桃香さん、寺戸光輝くん、永見雄大くん）

《内容》「聞き書き」の成果発表・・・「高津川と有機農業の関係性」

- 農業や化学肥料が及ぼす影響について
- 有機農業を広めることで、田んぼなどの様々な生き物や自然環境が守られている。
- 高津川の水質が米作りにいい影響を与え、おいしいお米になっている。
- 吉賀町のお米と野菜のおいしさや、自分たちが調べてわかったことを伝えていきたい。

### 3. 1年生チーム「太陽」（泉文媛さん、黒川尚夢くん、實吉藍菜さん、中嶋大耀くん）

《内容》「聞き書き」の成果発表・・・「家庭排水の現状から探る高津川」

- 家庭排水についての聞き取り調査の結果（七日市地区50軒と六日市地区50軒の比較）
- 高津川の水質を守るために、合併浄化槽の設置を義務づけると良いのではないかな。
- 私たちにできること・・・合成洗剤を使いすぎない、合成洗剤を公共施設に置かない、油や汚水を流さないようにする、EM団子やEM石鹸を作って町内の小中学校に配る。

### 4. 2年生チーム「わたがし」（山本真衣さん、黒川礼智くん、内藤大意くん、野田歩乃花さん、前田比奈さん）

《内容》「アントレプレナーシップ教育」の成果発表・・・「切手で活性化」

- オリジナル切手の販売によって、吉賀町の魅力を発信したい。
- 名誉町民である森英恵さんと澄川喜一さんにご協力いただいて、森英恵さんの蝶のデザイン、澄川喜一先生の彫刻の写真、吉賀町の風景写真などの切手をシリーズで作って販売すれば、全国の切手マニアの購買意欲につながるのではないかな。
- 町内郵便局での販売に限定することで、吉賀町に足を運ぶ人の増加が期待できる。

### 5. 2年生チーム「中田」（中田帆南さん、松田あずみさん）

《内容》「アントレプレナーシップ教育」の成果発表・・・「吉賀町の教育」

- 吉賀高校生の学力をより高めるためにはどうしたらよいか。
- 具体的な提案として、（1）吉賀高校生が町内の小中学生に勉強を教える（2）お昼寝タイム15分を設ける（科学的な根拠も立証されている）（3）先生二人体制にして、わからないところをすぐに教えてもらえるようにする（4）授業時間を30分にして授業時数を増やす



## 離任の挨拶

中上明先生（地歴・公民科） 宍道高校へ

3年間勤務しました。一人だけの地歴・公民科教員ですので、2年・3年の日本史B、世界史A、政治・経済、現代社会、3年生補習の全てを担当しました。おそらく県内で一番、一人で多種の科目をこなした地歴公民教員だったろうと自負しています。PTAでは保護者の方々に大変お世話になりました。陸上部で正・副顧問でしたが、素人で大したこともせず申し訳ないと思うばかりです。単身赴任生活でキヌヤ、サンマートで皆さんと会うことにも慣れました。美しい吉賀町の風景の中で暮らした日々は忘れません。



藤田大介先生（体育科） 松江商業高校へ

多くの方に支えられて、充実した6年間を過ごすことができました。「生徒が成長できる学校」が「魅力のある学校」だと信じて、自分ができることを懸命に取り組みました。また、様々な場面で地域の方の協力あっての学校なのだと実感できる6年間でもありました。特に、サッカーの育成に園児から携わり、小学校、中学校とほぼボランティアで指導されている皆さんのおかげで、吉賀高校サッカー部は存続し、活躍できたのだと思います。本当に感謝しています。

これからも吉賀高校がさらなる飛躍することを期待しています。私も、新たな地で挑戦していきたいと思っています。今までありがとうございました。



中島はるか先生（養護教諭） 益田翔陽高校へ

素直で人懐っこい生徒のみなさん、温かく熱心な保護者の皆様や地域の方々に囲まれ過ごしたかけがえのない7年間でした。全校生徒の顔と名前がわかり、全ての生徒に関わることができたというのは、大規模校の養護教諭では味わうことのできない貴重な経験でした。また、様々な課題と一緒に悩み考える中で、改めて養護教諭として大切にしなければならないことを再認識することができました。ここで得た多くのことを活かし、新しい学校でも頑張っていきたいと思っています。吉賀高校は離れますが、これからもみなさんを見守り応援し続けていきます。7年間ありがとうございました。



中高一貫教育だより -吉賀地域中高一貫教育事務局(島根県立吉賀高等学校内)-

中高一貫教育コーディネーター 春日亮二(吉賀中学校)

### 吉賀地域中高一貫教育を盛り上げていきましょう。

この1年間吉賀地域中高一貫教育として様々な活動が行われました。各教科の授業交流、一日体験、よしか塾、よしか祭、合同ロードレース、合同柔道等どれ1つをとってみても「連携」というキーワードに合致するものであると思います。さらに今年度は平成18年度に策定された中高一貫教育「基本構想」の見直しを始めました。細かな部分についてはまだ少し時間がかかりますが教職員をはじめ保護者、地域の方を交えて吉賀地域の子どものためにさらによりよき中高一貫教育を目指していきたいと思っています。